東京交通新聞H22／12／13

安全総点検スタート

関運局長 横浜のアサヒタク査察

関東運輸局は年末年始の輸送安全総点検がスタートした10日、幹部が交通事業者の査察を行い、タクシー関係は神谷俊広局長、野津真生自動車技術安全部長らが横浜市のアサヒタクシー（藤井嘉一郎社長）の山手営業所（中区）で実施状況を検査した。

アサヒタクから藤井社長、藤井調会長、谷川敏治取締役運行管理本部長ら幹部が出席。運輸安全マネジメント（07年着手）を中心に県内初のグリーン経営認証（05年）も含めた事故防止と環境の取り組みを説明した。ドライブレコーダー・防犯カメラやデジタコ活用状況、疾病による事故対策では、異常を自覚した場合の速やかな連絡の徹底、健康診断の二次検診に対する助成措置などを示した。

事業所内の視察では、点呼場とアルコールチェッカー、ラジオタク無線のサテライト配車システムなどの状況を説明した。

査察結果について萩原邦男神運支局長が「社長はじめ幹部のリーダーシップのもと真剣に取り組んでいる」と講評した。

さらに神谷局長が「安全と環境に徹底して熱心に取り組んでいるのを現実に見て実感した。NASVA安全マネジメント評価を県内第1号で受け、子育て支援、事業再構築にも積極的でトータルにみて全国の模範となるタクシー経営の事例だと認識した。NASVAとも連携し全国に発信したい」と述べた。

アサヒタク事業所を査察する神谷関運局長（右から3人目）ら＝10日

年末輸送安全総点検始まる

国交省

国土交通省は恒例の「年末年始の輸送安全総点検」を10日スタート、来年1月10日までの1カ月間、陸・海・空にわたり運輸事業の現場指導を各地で展開する。重点項目に①事故・事件発生時の乗客の安全②テロ防止③新型インフルエンザ対策――を設定し、施設・車両の整備や運行管理の状況をチェックする。バス・タクシー・トラックでは飲酒運転と過労運転・健康起因事故の防止、事故負傷者の救護なども重点に掲げた。

自動車交通局幹部による「査察」が行われ、初日、中田徹局長がトラックの七福運送・本社営業所（東京・新宿区）に出向き、デジタル運行記録計やアルコール検知器の使用の様子などを点検した。神谷俊広関東運輸局長はアサヒタクシーの山手営業所（横浜市）を査察した。ともに関運局の野津真生自動車技術安全部長らが同行した。

自交局の査察はこのほか、門野秀行審議官が13日、帝都自動車交通の大森営業所（大田区）に、木場宣行技術安全部長は14日、西武バスの所沢営業所（埼玉県所沢市）に、渡辺秀樹安全政策課長は13日、東武バスイーストの西柏営業所（千葉県柏市）に出向く予定。

（4面などに関連記事）